

京都文化芸術都市創生計画の進捗状況

目次

- 1 第2期京都文化芸術都市創生計画に掲げる132項目の進捗状況
- 2 令和3年度の主な文化関連事業
- 3 令和4年度の主な文化関連事業

第2期京都文化芸術都市創生計画に掲げる132項目の進捗状況

(令和3年度末時点)

実施済又は実施中	129項目（98%） ・58：全国の様々な人が集う伝統芸能の祭典の開催 「一部を除き、実施済又は実施中」から進捗
一部を除き、 実施済又は実施中	3項目（2%） ・93：京都に息づき世界的に評価の高まっている和の文化の振興とユネスコ無形文化遺産への登録に向けた支援 ・104：京都における新たな世界遺産の登録 ・114：文化庁の全面的な移転に向けた取組の着実な推進
企画・構想 設計段階	なし
着手前	なし

令和3年度の主な文化関連事業について

KYOTO STEAM – 世界文化交流祭 –

平成29年度から5年間、文化庁補助事業を活用し、芸・産学公連携による、文化芸術都市・京都の持続的な発展を目指し、「アート×サイエンス・テクノロジー」をテーマに文化芸術の新たな可能性と価値を世界に問う、新しい形態の国際的な文化・芸術の祭典「KYOTO STEAM – 世界文化交流祭 –」（文化芸術事業）を開催。人材育成や国際交流・ネットワーク構築・情報発信に取り組んだ。※STEAMとは…Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Arts（芸術）、Mathematics（数学）

平成29年度

基礎づくり
メディア芸術祭、準備会発足、基本計画検討等

平成30年度

プレ開催、機運向上
「KYOTO STEAM – 世界文化交流祭 – prologue」

令和元年度

フェスティバルvol.1
「KYOTO STEAM – 世界文化交流祭 – 2020」

令和2年度

プレ開催、機運向上
「KYOTO STEAM – 世界文化交流祭 – 2022prologue」

令和3年度

フェスティバルvol.2
「KYOTO STEAM – 世界文化交流祭 –」

最終年度（令和3年度）の取組

5年間の集大成となる令和3年度は、「KYOTO STEAM-世界文化交流祭-2022」を開催。これまでの経験とネットワークを最大限に発揮した14のプログラムを実施した。

（取組例）



「KYOTO STEAM 2022 国際アートコンペティション」
公募にエントリーした41件の企業・研究機関と111件の作品プランの中から選ばれた11組のコラボレーション作品を展示・表彰するコアプログラム。



「アートで感じる？ チンパンジーの気持ち」
ヒトに最も近い動物であるチンパンジーに寄り添い、ヒトにとってアートとは何か、という根源的な問いに迫る。

- 5年間に渡る多様な活動により、文化創造を担う次世代人材の育成、多分野間のネットワーク構築を促進
- 多くの方々に来場いただき、「アート×サイエンス・テクノロジー」という京都発の新しい文化芸術の世界を届けることができたとともに、コロナ禍における文化芸術の重要性を再確認

令和3年度の主な文化関連事業について

京都文化カプロジェクト2016-2020

「京都文化カプロジェクト」は、東京2020オリンピック・パラリンピック等を契機として、日本の文化首都・京都を舞台とした文化と芸術の祭典。オール京都で京都から多彩な文化・芸術を国内外に発信するため、平成27年度に基本構想を策定、平成28年度に市、府、商工会議所等で構成する京都文化カプロジェクト実行委員会を組織し、実施計画（総論）を策定。「創造する文化 京都から世界へ」をテーマに、平成29年度から令和元年度まで、「舞台芸術」「美術・工芸」「くらしの文化」の3分野について、年度ごとに1分野でリーディング事業を実施するとともに、機関誌の発行や推進フォーラム等を行った。

平成29年度

「舞台芸術」

東京都等との共同主催による「東京キャラバン in 京都・二条城」を開催

平成30年度

「美術・工芸」

野外インスタレーション公募展やシンポジウム等を実施。

令和元年度

「くらしの文化」

茶道やいけばなをはじめとする体験型イベントの開催や、イベントガイドの発行等を行った。

令和2年度

機運醸成の取組

・ポータルサイト「まじゅうお稽古」の運営
・「大人のインターシッ プ（文化交流）」等

令和3年度（事業終了）

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催時期に合わせて、**特設サイト「京都の文化・芸術の魅力」**を開設

新型コロナウイルス感染症の拡大、東京2020オリンピック・パラリンピックの延期

事業の成果

東京オリンピック・パラリンピックに合わせて開催の予定をしていた、あらゆる分野を融合した総合的な祭典は、新型コロナ感染症の影響により実施できなかったが、各年度のテーマに沿った事業を実施、最終年度にはオンライン上で国内外に京都の魅力を発信するなど、文化庁移転、大阪・関西万博を見据えた、未来への遺産（レガシー）を残すことができた。



令和4年度の主な文化関連事業について

文化庁移転・京都芸大・市立美術工芸高移転の機運醸成、文化芸術によるまちづくり

文化庁、京都芸大移転を契機に、文化芸術を創造し、国際的に様々な人が集い、交流し、まちが賑わい、世界に発信する「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生するとともに、京都全体の文化芸術によるまちづくりを一層推進する。

京都アート・エコシステム推進事業

以下の取組等を複合的に組み合わせて有機的に連動・連携させながら「京都アート・エコシステム」を形成する。

Arts Aid KYOTO

文化と経済の融合（アート×ビジネス）推進事業

アート市場活性化事業

経済

文化
芸術

観光

文化庁移転記念事業をめぐる 「ART WALK KYOTO」

まち歩き事業「ART WALK KYOTO」を実施し、文化庁移転の機運を高めるとともに、文化芸術都市・京都の活力の向上を図る。

多くの方々に京都の「アート」に触れていただくための機会を創出。

伝統芸能文化創生プロジェクト

本市の伝統芸能の活性化を図るとともに、文化庁とも連携し、全国の関係機関とのネットワークを構築。全国を対象とした相談窓口を開設し、復元・活性化共同プログラムを推進することで、日本の伝統芸能文化の振興を目指す。

子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出

「文化芸術授業（ようこそアーティスト）」、「伝統講演授業（ようこそ和の空間）」を一体的な取組として実施、また、文化庁「子供たちの伝統文化の体験事業」を活用し、子どもたちがほんものの文化芸術に触れる機会を充実する。

学術
子ども

福祉
地域

文化芸術による 共生社会実現に向けた基盤づくり事業

文化芸術による社会的課題、困難の緩和に向け、福祉施設等が文化芸術の取組に着手しようとする際の相談への対応、コーディネーターの育成、芸大移転予定地でモデル事業等を実施。

京都駅東部・東南部エリアの活性化

京都芸大の移転等を踏まえた文化芸術を基軸としたまちづくりを進め、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンの創出を図るため、アーティストや地域の方、事業者等との交流を促し、文化芸術によるまちづくりを進める。

令和4年度の主な文化関連事業について

京都市立芸術大学（京都芸大）の移転整備

京都芸大のこれまでの永年の取組を継承しながらも、世界に冠たる芸術大学として一層飛躍するため、京都の玄関口である京都駅東部エリアへキャンパス移転を行う。同エリアに、文化芸術を創造し、国際的に様々な人が集い、交流し、まちが賑わい、世界に発信する、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンを創生するとともに、隣接する京都駅東南部エリアの文化芸術と若者を基軸とした活性化の取組とも連携しながら、京都全体の文化芸術によるまちづくりを一層推進する。

移転スケジュール

- 令和3年4月 : 工事着工
- 令和5年4月 : 美工高（現銅駝美工）移転予定
- 令和5年10月 : 京都芸大移転予定
- 新キャンパス建築工事の実施



起工式の様子



高倉塩小路から



高瀬川から



工事の様子（2022年9月）

令和4年度の主な文化関連事業について

京都市文化芸術総合相談窓口（通称：KACCO）

ウィズコロナ社会における活動支援や活動再開に関する相談に総合的に対応する「京都市文化芸術総合相談窓口（通称：KACCO）」を京都芸術センター内に設置している。KACCOでは、長引くコロナ禍にあっても、文化芸術関係者をしっかりと下支えするため、文化芸術関係機関はもとより、法律・税務等の専門家とも連携しながら相談対応を行っている。

活動内容

文化芸術活動全般に係るアドバイス、各種補助金の紹介に加え、オンライン配信に係る技術相談や契約書・著作権等の法律相談、税務・確定申告の相談に至るまで、幅広く対応している。

（参考）相談件数

令和2年度： 569件（令和2年7月設置～令和3年3月末）

令和3年度： 1,613件（令和3年4月～令和4年3月末）

令和4年度： 382件（令和4年4月～令和4年9月末時点）

※通常相談のほか、相談会等イベントでの相談件数を含む。



令和4年度の主な文化関連事業について

京都アート・エコシステム推進事業

令和3年8月に策定した行財政改革計画に掲げた都市の成長戦略「文化と経済の好循環を創出する都市」において、「京都アート・エコシステム実現プロジェクト」をリーディング・チャレンジに位置付けている。企業をはじめとする多様な主体が文化に投資する潮流を生み出し、国内外からの投資、支援を呼び込む仕組みを構築し、アーティストが市内で定住、創作、発表、販売できる環境を整備、企業など多様な主体と交流する機会を創出する。令和4年度は、文化庁移転やウィズコロナ・ポストコロナを見据え、危機的な財政状況の中でも、民間資金の獲得や国費の活用等により、文化と経済の融合による新たな価値創造の具体化を図る取組を推進。

Arts Aid KYOTO

京都市 連携・協働型文化芸術支援制度

京都の文化芸術を担うアーティスト等の活動について、個人・企業の寄付等を通じて社会全体で支え、持続可能な文化芸術の振興を図る。



文化と経済の融合 (アート×ビジネス) 推進事業

京都の多様な文化芸術の蓄積や創造力と、産業政策のスタートアップ支援等を融合した新たな取組として、京都芸術センターにおいて、芸術家と起業家等とのマッチングや、アートとビジネスの接点を探るセミナー等を企画・実施する。

アート市場活性化事業

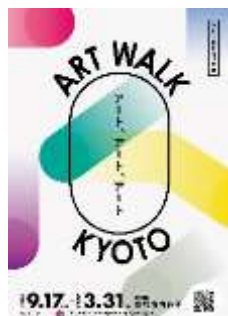
若手芸術家の活動環境の向上とアート市場の活性化を図るため、アート作品を市民の身近なものにするためのオンライン販売サイトの構築や施設・イベントと連携したリアル展開など、若手芸術家の作品とアート市場をつなぐ取組を進める。

アートの社会的・経済的な価値を高め、
アーティストの国内外での評価も高めることで、その活動基盤の充実につながり、
創作活動がさらに活発になるというアートを取り巻く体系（エコシステム）の
好循環を形成する

令和4年度の主な文化関連事業について

文化庁移転記念事業をめぐる「ART WALK KYOTO」

文化庁移転の機運を高めるとともに、文化芸術都市・京都の活力の向上を図るため、「文化庁移転記念事業」（本市や民間の事業が参画）の多彩な催しやカルチャースポット等を巡る「おすすめコース」を紹介し、多くの方々に京都の「アート」に触れていただくための、まち歩き事業「ART WALK KYOTO」を実施。



◀ 公式サイト、リーフレット

「ART WALK KYOTO」
公式サイトや、リーフレット等で
おすすめコース等を広く紹介。



◀ デジタルスタンプラリー

令和5年1月31日までJR西日本のアプリ
「WESTER」を活用し、デジタルスタンプ
ラリーを実施中。

主な連携事業

1 ウォーホル・ウォーキング (R4.9.17～R5.2.12)

京都市京セラ美術館で開催中の「アンディ・ウォーホル・キョウト」との連動企画。ウォーホルが京都を訪れた際の足跡を辿りながら、京都の街を歩いて楽しむ体験型イベント

2 NAKED GARDEN ONE KYOTO (R4.9.15～R4.12.25)

二条城や寺院神社などの歴史的建造物を舞台に、リアルとメタバースのバーチャル世界がクロスオーバーする、次世代型街アートプロジェクト

3 京都モダン建築祭 (R4.11.11～R4.11.13)

京都に現存する魅力的なモダン建築を、各所で一斉に公開する建築フェスティバル



令和4年度の主な文化関連事業について

伝統芸能文化創生プロジェクト

平成23年度に本市が策定した「国立京都伝統芸能文化センター（仮称）基本構想」に掲げるセンターに備えるべき機能の実現を目指すプロジェクトとして、平成29年度から実施。伝統芸能文化に関する保存・継承・普及等の総合的な観点から、伝統芸能文化を取り巻く課題の改善に取り組む。本市の伝統芸能文化の活性化を図るとともに、文化庁とも連携し、全国の関係機関とのネットワーク構築を推進することで、日本の伝統芸能文化の振興、京都の伝統芸能文化の創生につなげる。

6つの機能の更なる強化を目指す

- 1 伝統芸能に関する学術研究
- 2 伝統芸能に関する創造・普及
- 3 楽器・用具用品に関する相談・支援
- 4 ネットワーク・コーディネート
- 5 全国発信・地域間交流
- 6 海外発信・国際交流

平成19年度～平成25年度の「京都創生座」や平成21年度～平成28年度の「五感で感じる和の文化事業」の、流派を越えて伝統芸能の持つ力を引き出す創作・公演や、国内外への発信・交流、市民への普及等の成果を引き継ぎ、平成29年度から「伝統芸能文化創生プロジェクト」として、上記6つの機能の更なる強化のための活動を行っている。

伝統芸能アーカイブ＆リサーチオフィス（TARO）



平成29年

「伝統芸能文化創生プロジェクト」を推進する主体となる
「伝統芸能アーカイブ & リサーチオフィス(TARO)」
を設置

TAROとは・・・

「伝統芸能文化センター」に必要とされる機能の確保・強化に取り組む事務局。伝統芸能の継承や保存、用具・用品とその材料の確保、普及・創造・発信活動など、伝統芸能文化の総合的な活性化の観点から、ネットワークの構築や基礎調査等を進める。

令和4年度の主な文化関連事業について

子どもを対象とした文化芸術に関する主な施策

文化財分野	生活文化分野	伝統文化分野	伝統産業分野	舞台芸術分野
●『葵祭見学』 ●『時代祭見学』 ●『歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定』 ●『中高生による「京都・観光文化検定試験3級」チャレンジ事業』	●『伝統文化体験事業(茶道・華道)の充実』 ●高校での『「茶道」を中心としたおもてなし事業』 ●『学校給食における「和食」の充実に向けた取組の推進と情報発信』	●『ようこそ和の空間』 能、狂言、邦舞、邦楽の伝統芸能公演鑑賞 ●『市立高校生の伝統文化体験事業「能楽鑑賞会」、「坐禅体験会」』 ●『社会に開かれた教育活動推進事業』 家庭や地域と連携した伝統文化体験	●『京の「匠」ふれあい事業』 伝統産業製作体験 ●『夏のこども体験教室』 京くみひも作り体験・平安貴族体験など	●『小学生演劇鑑賞教室』 R T 京都で劇団四季の演劇鑑賞 ●『小学生のための音楽鑑賞教室』 京都 C H で京響の演奏鑑賞 ●『文化芸術による子供育成推進事業(文化庁事業)』 実演芸術の巡回公演、学校での文化芸術鑑賞・体験
『ようこそアーティスト』 「放課後も！ようこそアーティスト」(新規) 「親子でも！ようこそ和の空間」(新規) 『歴史的建物での華道・茶道体験』(新規) 『京の技専門家派遣事業』 『京の生活文化普及啓発事業』等				

令和4年度の主な文化関連事業について

文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業

共生社会の実現に向けた基盤づくりとして、福祉施設等が文化芸術の取組に着手しようとする際の相談への対応、コーディネーターの育成、モデル事業の実施など、文化芸術により社会的課題・困難の緩和につなげるための取組を実施

相談事業 (Social Work/Art Conference(SW/AC))

芸術家等が社会課題へアプローチする際や、福祉施設等が文化芸術の取組に着手しようとする際の相談に対応する窓口を令和2年度に設置し、各種の相談に対応中

普及・啓発事業

社会課題にアプローチするアートプログラムの事例や効果伝えるための講座を実施

モデル事業

昨年度に続き崇仁地域を中心にモデル事業を展開。
令和4年度は特定のアーティストではなく、崇仁・東九条地域を中心として、地域住民や、継続的に地域で文化芸術活動を行う人々を対象に、対象者と相談を行いながら取組を進める。

調査

多様な相談に対応し、先進的な事業を実施するための調査を実施

コーディネーター育成

文化芸術と社会課題をつなぐコーディネーター育成に向け、スタッフを1名採用し相談事業等に対応

SW/AC 相談と連携のイメージ 2021



令和4年度の主な文化関連事業について

京都駅東部・東南部エリアの活性化

京都駅東部・東南部エリアにおいて、京都芸大の移転を契機とした文化芸術を基軸としたまちづくりの一環として、学生、アーティストと地域の方、事業者等との交流を促進し、相互理解を深める事業を進める。

活性化事業

広報誌「5TO9」の発行

アーティストと地域・事業者との交流や相互理解促進のため、京都芸大移転予定地の周辺エリアで活躍するアーティストに係る特集記事、地域・イベント情報を掲載。

アート作品を通じた地域との交流の場づくり

文化芸術・伝統産業の多様な担い手たちが地域の中で活躍できる場づくりの拡大のため、担い手と地域の方との交流の機会の創出や支援を行う。

新たな価値を生み出す創造・発信拠点の誘致

- ・ 今後のまちづくりに向けた土地利用調査・検討
当エリア内の市有地、民有地の土地利用に係る現況調査及び未利用の市有地活用
の方向性を検討。
- ・ 「京都駅東SDGs 未来創造拠点 共創プロジェクト」としてサウンディング型市場調査
を実施中（令和4年6月～）令和5年には、民間活用事業者の公募を実施予定
（令和5年3月～5月予定）

